

5 - 1 東海地方の微小地震の分布(1984年11月1日～1985年4月30日) Distribution of Microearthquakes in Tokai District (November 1, 1984 - April 30, 1985)

名古屋大学 理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1984年11月1日より1985年4月30日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

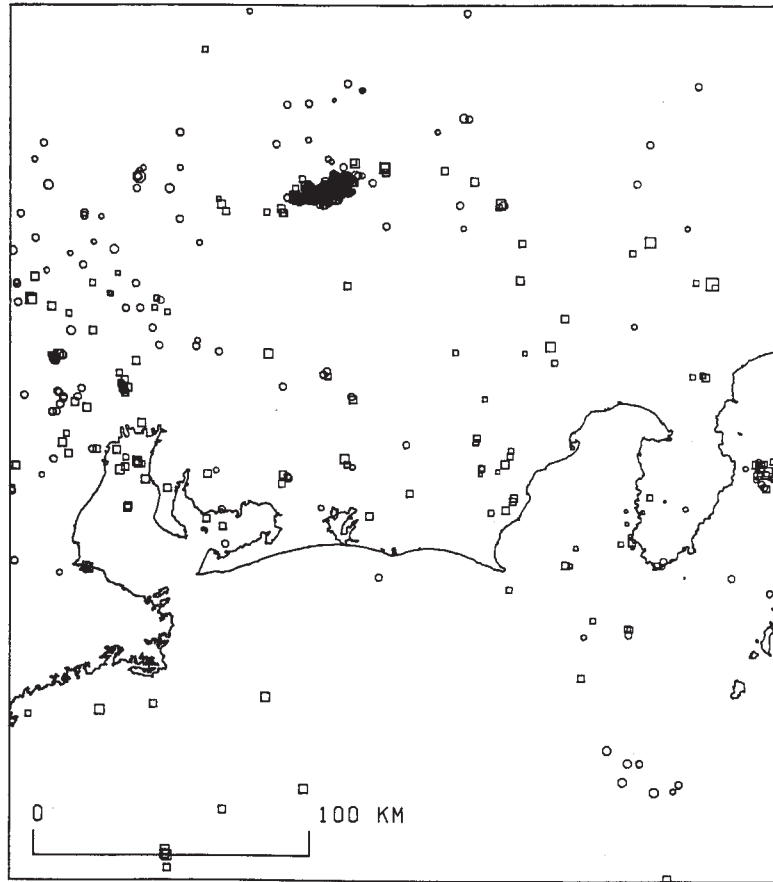
第1図に1984年11月1日より1985年4月30日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月ずつの期間に分けて示す。第2図は同じ期間に20kmから80kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 王滝村付近に発生する長野県西部地震の余震は時間とともに活動が低下しているが、1985年2月22日に牧尾ダム付近でM5.1の地震が発生するなど依然として活発な余震活動が見られる。4月になってから余震域の東側でM4程度の地震とその余震があり、また、西側の岐阜県との県境付近もやや活発になった。
- (2) 伊豆半島東方沖では1984年11月から1985年1月迄は主に沖の海底下で地震活動が見られたが、2月に比較的静穏な状態が続いた後、3月から海岸線付近に活動の中心が移っている。
- (3) 3月30日から4月8日にかけて山梨県北部の広瀬ダム付近でM3.5の地震を含む小規模な群発地震活動が認められた。
- (4) 上記以外の地域では特に際立った活動は見られなかったが、全般的には天竜川以東の地域で発生している地震数は比較的多かったようである。

参 考 文 献

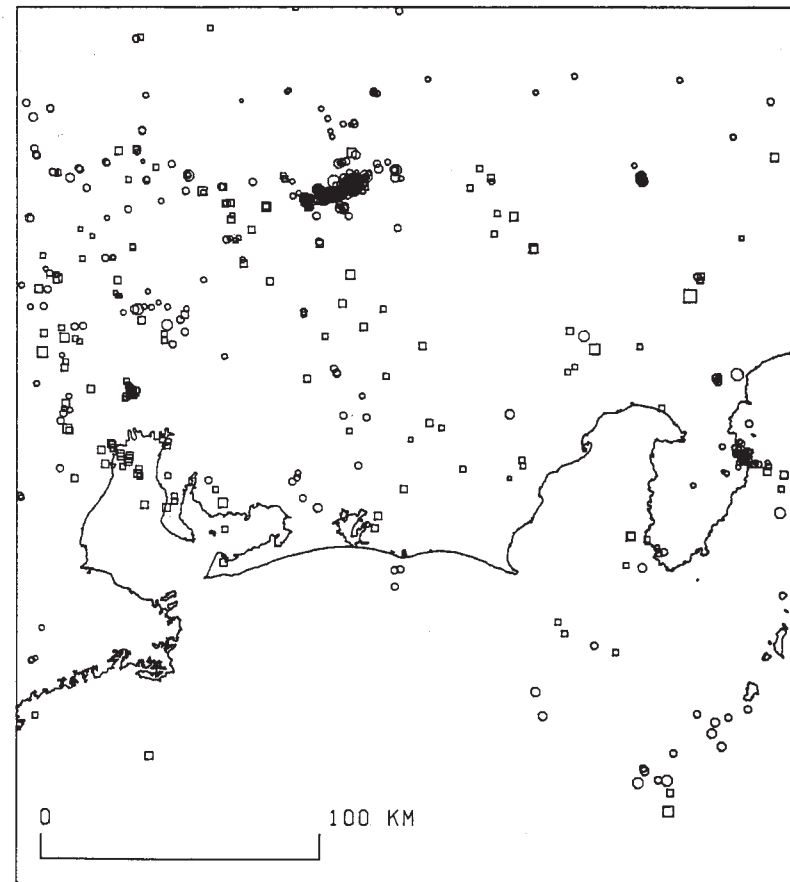
- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布(1984年5月1日～1984年10月31日), 連絡会報, **33** (1985), 273 - 275.



N = 798

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ · ○ ○ ○

1984 11 1 - 1985 1 31



N = 833

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ · ○ ○ ○

1985 2 1 - 1985 4 30

(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1984年11月1日~1985年4月30日) 震源の深さが20Km以浅のもの

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1984 - April 30, 1985) shallower than 20 km.

